

【JICA エッセイコンテストを活用した教育実践】

JICA エッセイコンテスト応募勸奨の方法

千葉県 西武台千葉中学・高等学校 教諭 福島 英行

中学・高等学校で活動なさっている国際教育担当の先生方が共通に持つジレンマをよく耳にします。それは、国際教育が既存の教科と同様に重要であることは周知の事実ではあるが、その為に充当できる時間がごく僅かに限られているのが現実だということです。さらに、興味のある生徒だけではなく、全校生徒対象となればなおさら厳しいのが実情でしょう。本校においても、総合学習の時間を活用していますが、キャリア教育、生徒指導関係、学年行事等に充てられる時間もあるので、十分な時間を確保することが大変難しい。そこで、コンパクトにまとまっていて、発展性も兼ね備えた JICA エッセイコンテストを活用しています。

☆ 生徒達の“想い”を形にできる JICA エッセイコンテスト

テレビや雑誌あらゆるメディアがその特性に合致した価値観のもと、世界で起こっている様々な出来事を報道し、私達はそれを目にする機会が増えています。現状を目の当たりにして、その一瞬、一瞬、確かに何かを感じるのですが、その想いを誰かに伝えるわけでもなく、日々の生活の中で忘れ去ってしまいます。ついには見慣れてしまっていて現実味がなくなり、いつしか普通のことのように感じ始めるのです。そのうち、「あれは特別に選ばれた誰かが何とかしてくれるはずだ。でもそれは私ではない。あの人達に任せておけばいい。」となぜか善意の傍観者となり、誤ったメタ認知により問題意識が解決されていってしまうのです。このことは生徒達も例外ではありません。

何かを感じたその純粋な“想い”を何らかの方法で発表する機会を持ち、形にすることは出来ないだろうか。さらに、芽生えた視野を持ち続け、成長を促す効果を高める手段はないだろうか。この答えが JICA エッセイコンテストへの全校生徒参加だったのです。

☆ JICA の協力で一人でもすぐに始められる

JICA から送られてくる資料を活用すれば、応募までの事務的準備は全て可能です。大型のポスターは全校生徒の目に頻繁に触れる昇降口付近に掲示します。同時に、各担任に協力してもらい教室にもチラシを掲示します。「今年もその季節になったなあ」と生徒達が感じられるように時期を絞って定期的に広報活動を行います。応募用紙は JICA 地球ひろばホームページからダウンロード可能ですが、環境が整わない生徒用に原稿用紙を印刷し、手に取りやすい昇降口に置きます。本校では導入期は国語科と協力して、全校生徒の夏期休業中の宿題としました。夏期休業後に各クラス、学年で回収し、名簿を作成、応募書類を整え JICA に発送します。この手順なら過度な負担はなく進められると思います。コンテストですので優秀作品は表彰されますが、そうでなくても年内には参加者全員に参加賞が贈られます。



*JICAによる表彰風景

特別な経験をしている生徒だけが受賞しているわけではありません。隣の席に座っている〇〇さんが、受賞する可能性もあります。生徒達にある「特別に選ばれた誰かが・・・」という気持ちを払拭する目的もあり、入賞者がいる場合は全校集会で表彰を行っています。また、条件が整えば JICA の方が学校まで表彰に来て下さることもあります。このような表彰も生徒の励みとなり、参加意識が高まっていきます。

☆ 「何を書けばよいのかわからない・・・。」そんな不安の声が聞こえてきたら
ぜひお勧めしたい JICA 国際協力出前講座とのコラボレーション

本校では毎年秋に JICA 国際協力出前講座を依頼しています。JICA の専門家やボランティア経験者を派遣して頂き、全校生徒対象に講演をして頂いています。講演内容は様々ですが、派遣先の民族衣装に着替えて講演する、独特な楽器を演奏し歌を披露する、クイズ形式で進行するなどの趣向を凝らした内容は、生徒達を飽きさせることはありません。さらに、依頼を受けた講師の方は、事前の打ち合わせで各校の実情を配慮した講演内容を考えてくれます。本校では「JICA エッセイコンテストで生徒各自が考えた様々な想いは、机上の論理ではなく、行動を起こせば実現可能であり、すでに実践した人がここに実在し講演を行っている」ということを示して欲しいというリクエストを必ずしています。

講演終了後、事後学習として各 HR にて書く講演会の感想文は次回の JICA エッセイコンテストの良い道しるべとなります。導入期「何を書けばよいのかわからない・・・。」そんな不安な声が多く聞こえたら、出前講座を初夏にお願いすると良いと思います。



* 出前講座の様子：JICA 各国内拠点、国際協力出前講座担当へ問い合わせして下さい。

☆ 中学生に勧めたい N I E (Newspaper In Education) からのアプローチ

中学生にはN I E (Newspaper In Education) を取り入れ早期より世界の様々な出来事に関心・疑問をもたせる活動も効果的です。様々な角度から物事を捉え、じっくりと考え理解が出来ない時は繰り返し読み、調べて内容を把握する。この作業においては、映像や音声よりも活字のほうが扱いやすいと思います。また、記者の見解なども参考にできます。

本校では中学校の3年間、新聞切り抜き活動に取り組んでいます。中1ではテーマを絞り、その内容にあった新聞を切り抜き、貼り合わせて独自の新聞をつくりあげます。中2では5人グループである程度絞ったテーマから希望選択させ、グループとしての意見をまとめて記事にします。中3では今までの集大成として、各自が考えたテーマを個人の切り口でまとめ新聞を作ります。国際理解に関わるテーマで作上げた生徒の視野は広く、独自の考えも持つようになります。「何を書けばよいのかわからない・・・。」とは無縁になり、JICA エッセイコンテストへの積極的な参加にもつながります。



*世界のテロ、貧困、税金、人種差別問題や米国大統領選、英国EU離脱など生徒達の選択したテーマは様々なものに及ぶ。また、待機児童問題や原発再稼働の是非などの日本社会のテーマもある。

*文化祭での展示より

☆ JICA エッセイコンテスト応募後 次回応募への継続法

JICAのエッセイコンテストの応募作品は返却されません。そこで生徒達には作品の提出用とそのコピーの保管用を用意してもらいます。生徒達がお互いどの様な考えを持っているのか知る機会は大変重要です。各クラス朝/帰りのSHR等で生徒に順番で自分の作品を発表してもらいます。同じ意見を持っていることを知って共感することもあれば、独創的な意見に驚くこともあります。生徒達はその時感じた想いを「Aさんに同感」とか「Bさんの発想がユニーク」などのメモを書き残します。JICA 国際協力出前講座まで時間の許す限り進めていきます。出前講座終了後、生徒達は実体験を聞いて様々な事を感じています。その瞬間を逃さないように、各自の考えを具体的にどうすれば実現できるかに焦点を当て、メモ書きを参考に、同様なあるいは独創的な意見を持ったBさんの提案で考えてみたいなど、数グループに分かれて考察を続けていきます。学年が変わる前までには、グループの意見をまとめ、発表の機会を設けます。生徒達の創造力がやがてイノベーションを生み出すかもしれません。そして、新学年になり、間もなくすると、新しい募集が始まるのです。

このように生徒達はJICA エッセイコンテストを軸に、1年間を通して常に国際理解について触れることとなります。専門的であったり、集中的に沢山の時間を費やすことはありませんが、

意識を持ち続けることも大切な国際教育の一面です。このことで「特別に選ばれた誰かが・・・」という気持ちが薄れ、より発展的な意識も芽生えていくのです。

☆ 培った経験が思いの外、多方面に波及する



*留学生と記念撮影/高2クラスにて

JICA エッセイコンテストを軸にした国際教育が軌道に乗ると、様々な活動に対する生徒の姿勢が変わり始めました。例えば、地元クラブの要請を受けてフィリピンの短期留学生を受け入れています。その受入希望クラスやバディ役に積極的に声が上がります。別れの日には寂しくて、号泣する生徒もいました。

中学3年生のカナダバンクーバーへの語学研修では、単なる語学研修で終わることなく、本校の教育方針「文武両道」の武を武士道の武と捉えて、「願わくば、われ、太平洋の橋とならん」と新渡戸稲造が胸に抱いた国際貢献の志と武士の精神性の足跡を辿り学びます。

以前は応募者が少なかった希望制の高校オーストラリア語学研修は、近年定員を上回る申込があります。さらには、オーストラリアの中学・高校生の考えている夢、日本観、国際貢献など生徒達は各自研究テーマを持って語学研修に参加するようになりました。

いずれの例もほんの少しの違いですが、グローバル社会を生きてゆく生徒達にとって、今後につながる大きな違いでもあるのです。

☆ まとめに代えて

国際教育活動のドアは、それがどんなに小さくて地味なドアであっても、校内に必ずあることが大切だと考えています。全校生徒がドアの存在を知っていて、興味を持てばドアを開いて外を見たり、そのドアから出ることも可能だと言うことを認識している状態が必要だと思います。様々な出来事が次々と起こっている世界がすぐそこにあることを実感し、各自それぞれが“想い”を寄せることが重要だと考えています。

JICA エッセイコンテストに参加して、生徒達の“想い”を形にしてみたいかがでしょうか。

☆ 学校の概要

所在地 千葉県野田市尾崎2241-2 <http://www.seibudai-chiba.jp>

1986年開校、文武両道・全人教育を掲げる男女共学の私立中学・高等学校です。中学男子79名・女子90名、高校男子535名・女子417名が在籍しており、明るく落ち着いた環境の中で学習に部活動に日々励んでいます。国際教育は国際交流部が企画立案し、必要に応じ、分掌や教科と共催で行っております。